

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
単元株式数	100株
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 同事務取扱場所 (郵便物送付先)	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎0120-782-031
(インターネットホームページURL)	https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/
公告の方法	当社のホームページに掲載する https://www.ferrotec.co.jp/
上場証券取引所	株式会社東京証券取引所 スタンダード

・株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。証券会社の口座のご利用がない株主様は、上記電話照会先までご連絡ください。

年間IRカレンダー



Ferro Tec

株式会社 フェローテックホールディングス

〒103-0027

東京都中央区日本橋2-3-4 日本橋プラザビル5階

TEL 03-3281-8808 FAX 03-3281-8848

URL <https://www.ferrotec.co.jp/>

UD FONT

見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



森林に配慮して適切に管理された森林認証紙を使用しています。



環境に配慮した植物油インキを使用しています。

第45期 中間決算報告

2024年4月1日～2024年9月30日

証券コード：6890

Ferro Tec

株式会社 フェローテックホールディングス

株主の皆さまへ



代表取締役社長
グループCEO
賀 賢漢

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに第45期中間決算報告をお届けするにあたりご挨拶申し上げます。

当社グループの事業環境は、半導体業界については在庫調整局面からの需要回復や昨年度から継続する中国ローカルメーカーからの高水準な需要も継続、テーマとしては生成AI関連市場も強い需要が継続しております。一方、米中半導体摩擦に伴う地政学リスクへの対応がますます重要性を増している状況です。かかる状況下において、年度初頭に竣工したマレーシア北部(クリム)の半導体装置関連の工場は量産の準備を終え、徐々に生産量を増やす局面にあります。また、マレーシア南部(ジョホールバル)、および日本の石川、熊本地区での工場建設も順調に進めており、成長機会を取り込むとともに地政学リスクを緩和する体制づくりを行ってまいりました。

本中間決算は、これまでに増強してきた生産能力を背景に需要の取り込みを行い、前年を上回る売上高、利益を達成することができ、売上高については過去最高の数値を達成することができました。

また、このたび株主還元強化策の一環として配当水準の見直しを行い、中間配当金額を50円から55円に、年間配当予想金額を100円から110円に引き上げるとともに、資本効率の向上と株主の皆さまへの一層の利益還元のため、自己株式の取得を行うことといたしました。

これら施策を進めてこられましたのも、ひとえに株主の皆さまのご理解、ご支援の賜物であると感謝いたしております。

当社グループはこれからも事業成長を追求し、株主の皆さまにとって「成長する楽しみが持てる企業」であり続けるよう努めてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

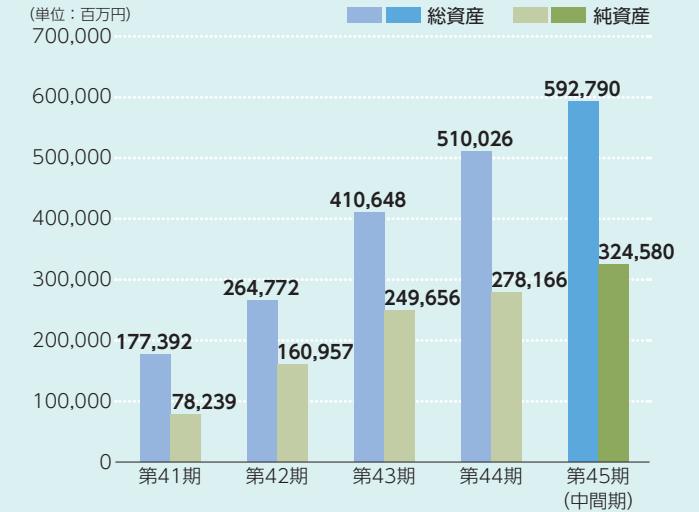
2024年12月吉日

財務ハイライト

売上高／経常利益



総資産／純資産



1株当たり当期(中間)純利益



ROE(自己資本当期純利益率)／ROA(総資産経常利益率)

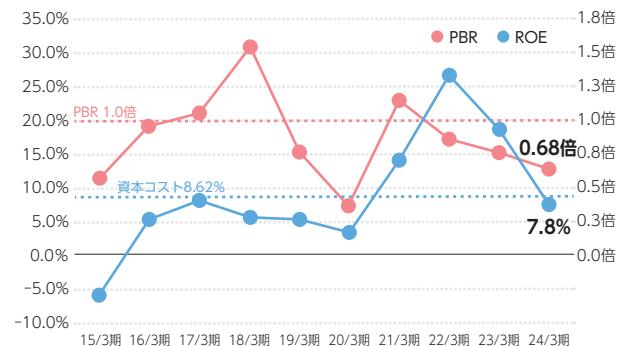


※第45期については、通期業績予想数値をベースにしています。

ROEの改善・PERの向上を図り、PBR改善を目指す

現状評価：PBRとROEの推移

PBRとROEの推移(直近10期)



PBR=株価÷1株当たり純資産額

ROE=当期純利益率×総資産回転率×財務レバレッジ

総資産回転率=売上高÷総資産

財務レバレッジ=総資産÷自己資本

株主資本コスト=24/3期 8.62%(CAPM(資本資産評価モデル)にて算出)

現状評価と改善に向けた方針

現状評価	<ul style="list-style-type: none"> ● PBR：22/3期～24/3期はPBR1倍割れが継続。 ● 24/3期のPBRはROEが前期比大きく低下したこともあり、0.68倍に低下。株主資本コストは、24/3期で8.62%と算出。 ● ROE：24/3期で7.8%と株主資本コストを下回っている状況であり、株主資本コストを上回る収益力の強化が経営課題と認識。
改善に向けた方針	<ul style="list-style-type: none"> ● PBR改善：ROE×PERに分解⇒ROEとPERを改善 ● ROE改善：事業成長、収益成長、収益力の強化を実現することとあわせ、ROICの管理および事業の選択と集中により、総資産回転率の向上と財務レバレッジの改善を図り、ROEを向上させる。27/3期にROE15%を目指す。(中期経営計画KPI) ● PER改善：株主還元策、非財務戦略(サステナビリティおよびIR・SR)の更なる強化を図る。

現状評価：ROICの推移

ROICの推移(直近10期)



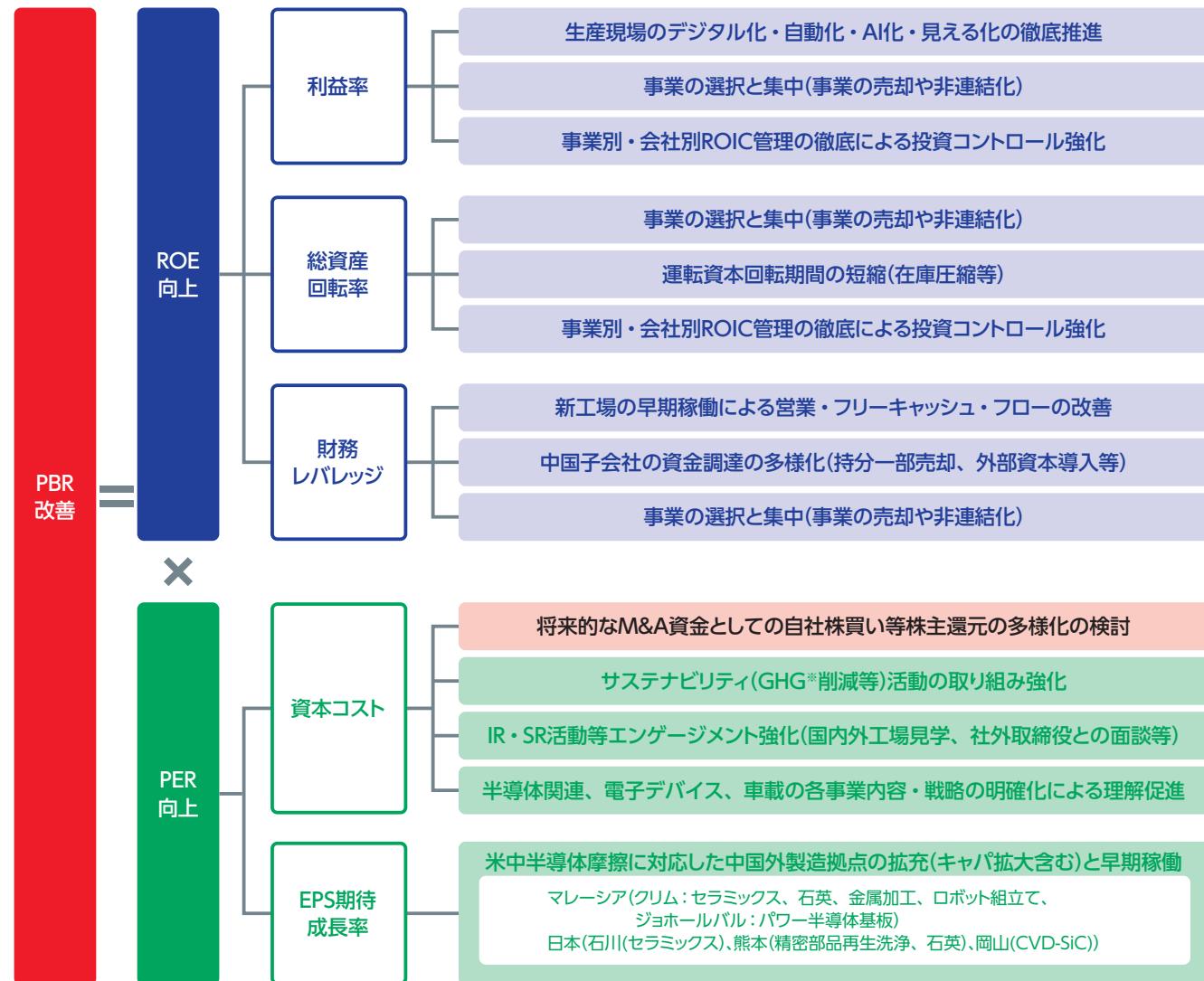
ROIC=親会社株主に帰属する当期純利益 / (有利子負債+自己資本)

加重平均資本コスト(WACC)=24/3期 7.98%

現状評価と改善に向けた方針

現状評価	<ul style="list-style-type: none"> ● 24/3期は4.5%とWACC(24/3期7.98%)を大きく下回っており、EVAスプレッド[※]はマイナスの状況。 ● 10期間のトレンドで見ても、WACCを超えた期は、2期(22/3期、23/3期)のみであり、ROICの改善が喫緊の経営課題と認識。 <p><small>※EVAは企業の経済付加価値。EVAスプレッド(=ROIC-WACC)が>0であれば経済的な付加価値を見出していると言える。</small></p>
改善に向けた方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業別、子会社別のROIC管理の徹底、ROICを基準とした投資判断・投資管理の更なる強化を図る。 ● 事業ポートフォリオの見直し・事業の選択と集中、グループ組織再編(事業売却や持分一部売却、非連結化等)によりROICの向上を図る。 ● 以上の施策により、事業成長のための投資を実行しながら、ROICを向上させる。27/3期にROIC8.0%を目指す。(中期経営計画KPI)

以下の施策実行によってROEの改善・PERの向上を図り、PBR改善を目指す



※GHGとは、Greenhouse Gasの略称で、温室効果ガス(主にCO₂)のことを指します。

EV時代を駆動する。フェローテックの車載関連事業

電気自動車(EV)の普及により、半導体技術は今や車載システムの中核を担っています。パワー半導体による電力効率の向上、ADAS(先進運転支援システム)や自動運転技術の実用化、そしてバッテリー管理システムの進化など。これらの技術革新を支えるフェローテックのコア技術が、次世代のモビリティを支えます。

※ 本年度より本事業を「電子デバイス事業」から独立させ業績報告を行っております。

【主な製品】パワー半導体用基板・アプリケーション

DCB基板

主にルームランプやAV・アクセサリ制御などのインバーター向けに使用されるパワー半導体ユニットに搭載される基板です。アルミナセラミックス材質の基板を提供しています。



AMB基板

主にバッテリー制御やモーター制御などハイパワー用途で使用されます。窒化珪素・窒化アルミニウム材質で、主にSiC基板と組み合わせられる基板です。



【主な製品】サーミスタ・アプリケーション

サーミスタ

サーミスタは温度変化に対し、極めて大きな抵抗変化を示す半導体セラミックスです。温度センサとして搭載され、エアコン、電池、燃料噴射など様々な制御を行うのに不可欠なパーツとなっています。



センサで世界を測る。未来を拓く。
OHIZUMI



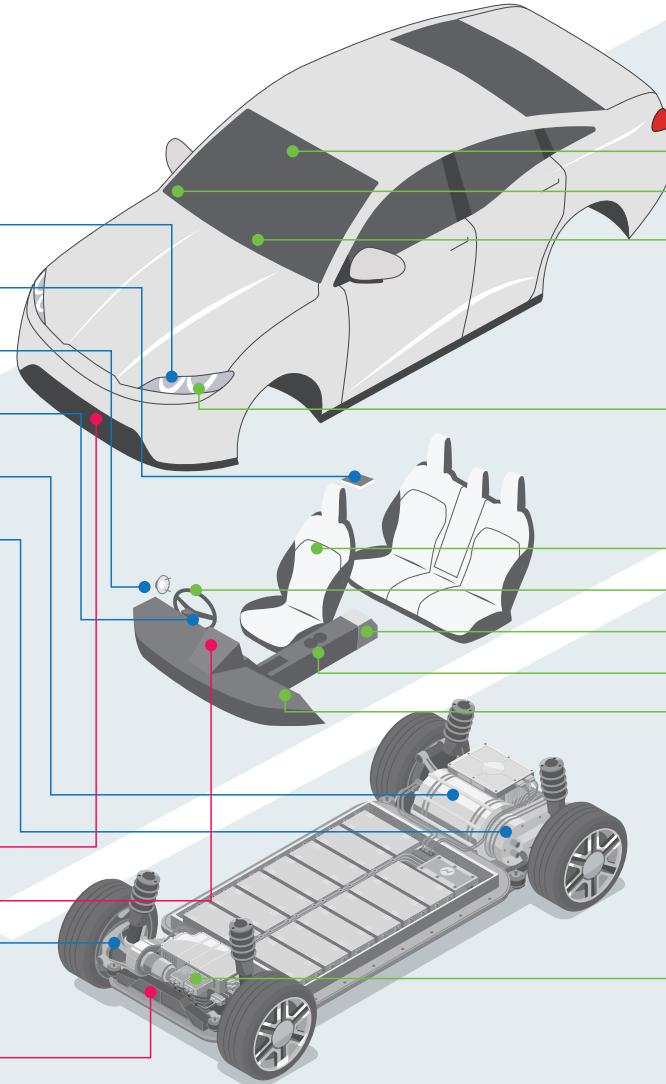
パワー半導体

- ヘッドランプ制御
- ルームランプ制御
- AV・アクセサリ制御
- ステアリング制御
- モーター制御
- トランスミッション制御
- ブレーキ制御



サーミスタ

- 吸気エア量用
吸気エア温度用
- 車内温度用
- ディーゼル燃温用
ラジエーター水温用



パワーサーモジュール



レーザーレーダー
ヘッドアップディスプレイ

ADAS(先進運転支援システム)
GPU(画像処理装置)クーラー
CMOS(相補型金属酸化膜半導体)クーラー

レーザーヘッドライト

シートクーリングシステム
ステアリングヒーター/クーラー

クーラーボックス
カップホルダー
ヒーター/エアコン

バッテリークーリング

【主な製品】サーモジュール・アプリケーション

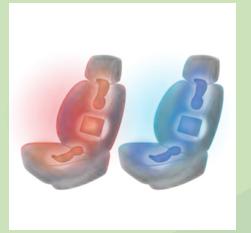
レーザーレーダー

レーザー光を対象物に照射して距離の計測や対象物の性質を特定します。サーモジュールを用いることで熱の影響を抑制し測定精度を安定させます。



自動車用温調シート

運転席、助手席、後部座席シートを温めたり冷やしたりすることで、快適なドライブが可能になります。



クーラーボックス

EV車は比較的車内の居住空間を広く確保できるため、クーラーボックスを搭載する車種が増えています。現在メーカーとの共同開発を進めています。

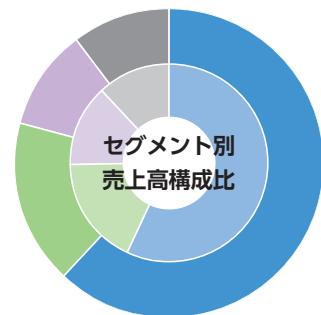


カップホルダー

従来からあるカップホルダーも、サーモジュールを使用し、保温・保冷機能を持たせることで快適なドライブをサポートします。



セグメント別事業概況



当社は、製品用途の類似性と販売先業種により区分し「半導体等装置関連事業」「電子デバイス事業」「車載関連事業」の3事業を報告セグメントとしております。

	第44期中間期(内周)	第45期中間期(外周)
半導体等装置関連事業	57.1%	62.1%
電子デバイス事業	17.8%	17.1%
車載関連事業	13.3%	10.6%
その他	11.8%	10.2%

半導体等装置関連事業

売上高 **840**億円 営業利益 **83**億円

半導体全体および半導体製造装置の需要が回復基調のなか、当社の真空シールおよび各種製造装置向け金属加工製品は前年同期比で大きく回復しました。半導体製造プロセスに使用されるマテリアル製品も石英製品・セラミックス製品を中心に売上を伸ばしました。部品洗浄サービスも、工場稼働率の回復を背景に売上を伸ばしました。石英坩堝については前年同期比で太陽光パネル製造メーカー向け出荷が増加したことにより増収となりました。



真空シール

電子デバイス事業

売上高 **230**億円 営業利益 **39**億円

サーモモジュールは、生成AI関連のサーバー投資の増加に伴い光トランシーバー向けの出荷が大きく伸びました。パワー半導体用基板についても、産業機械向け等で順調に売上を伸ばしました。また、センサの損益は株式会社大泉製作所の決算期変更により9カ月決算となるため当第2四半期の数値(3か月)のみ含まれております。

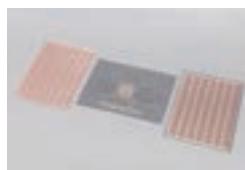


マイクロモジュール
(光トランシーバー向け)

車載関連事業

売上高 **143**億円 営業利益 **13**億円

サーモモジュールは、前年同期比で車載用冷蔵庫や自動車用温調シート向けの販売を伸ばしました。パワー半導体用基板については、DCB基板は競争激化の影響により伸び悩みましたが、高電流・高電圧下で使用されるAMB基板が売上を伸ばし、全体では増収となりました。また、センサの損益は株式会社大泉製作所の決算期変更により9カ月決算となるため当第2四半期の数値(3か月)のみ含まれております。



AMB基板

* 記載金額は、億円未満を切り捨てて表示しております。また、各セグメントの売上高は、外部顧客に対する数値を記載しております。

連結財務諸表(要約)

決算情報についての最新情報、詳細につきましては当社のIRサイトをご覧ください。
<https://www.ferrotec.co.jp/ir/>



連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当中間期 2024年9月30日現在	前期中間期 2024年3月31日現在
資産の部		
流動資産	289,842	248,408
固定資産	302,947	261,618
有形固定資産	239,137	201,339
無形固定資産	7,016	6,611
投資その他の資産	56,794	53,666
資産合計	592,790	510,026
負債の部		
流動負債	142,651	122,148
固定負債	125,558	109,712
負債合計	268,209	231,860
純資産の部		
株主資本	184,712	177,638
その他の包括利益累計額	53,190	26,771
非支配株主持分	86,677	73,756
純資産合計	324,580	278,166
負債純資産合計	592,790	510,026

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当中間期 2024年4月1日から 2024年9月30日まで	前期中間期 2023年4月1日から 2023年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,151	6,789
投資活動によるキャッシュ・フロー	△17,736	△29,101
財務活動によるキャッシュ・フロー	12,169	41,659
現金及び現金同等物に係る換算差額	8,978	4,414
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	7,562	23,761
現金及び現金同等物の期首残高	96,806	95,905
現金及び現金同等物の中間期末残高	104,368	119,666

* 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当中間期 2024年4月1日から 2024年9月30日まで	前期中間期 2023年4月1日から 2023年9月30日まで
売上高	135,157	105,494
売上原価	97,046	71,182
売上総利益	38,111	34,311
販売費及び一般管理費	23,859	21,276
営業利益	14,251	13,035
営業外収益	5,324	4,621
営業外費用	4,105	2,438
経常利益	15,470	15,217
特別利益	5	24
特別損失	-	495
税金等調整前中間純利益	15,475	14,747
法人税等	4,056	3,433
中間純利益	11,418	11,314
非支配株主に帰属する中間純利益	2,228	2,923
親会社株主に帰属する中間純利益	9,190	8,390

連結包括利益計算書

(単位:百万円)

科目	当中間期 2024年4月1日から 2024年9月30日まで	前期中間期 2023年4月1日から 2023年9月30日まで
中間純利益	11,418	11,314
その他の包括利益	34,438	13,419
その他有価証券評価差額金	△894	161
為替換算調整勘定	31,642	11,489
退職給付に係る調整額	80	78
持分法適用会社に対する持分相当額	3,610	1,689
中間包括利益	45,857	24,733
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	35,820	18,574
非支配株主に係る中間包括利益	10,037	6,158

株式情報 / 会社情報 (2024年9月30日現在)

株式の状況

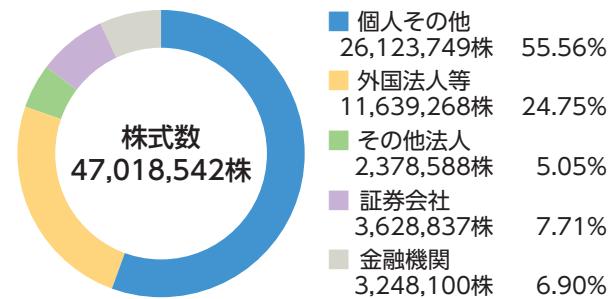
発行可能株式総数	100,000,000株
発行済株式総数	47,117,949株
株主数	48,175名

大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
JP MORGAN CHASE BANK 385632	1,091,212	2.32
GOLDMAN,SACHS & CO.REG	946,368	2.01
山村 章	853,200	1.81
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505223	741,475	1.57
JP MORGAN CHASE BANK 385781	652,500	1.38
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	624,200	1.32
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	604,900	1.28
セントラル短資株式会社	571,200	1.21
INTERACTIVE BROKERS LLC	511,900	1.08
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	497,700	1.05

(注) 1.当社は、自己株式99,407株を保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
 2.表示単位未満を切り捨てて表示しております。
 3.上記大株主の山村章氏は、2024年4月2日に逝去されましたが、2024年9月30日現在において名義書換が未了のため、同日現在の株主名簿に基づき記載しております。

所有者別株式分布状況



(注) 1.自己株式99,407株は上記の円グラフ中の株式数に含まれておりません。
 2.表示単位未満を切り捨てて表示しております。

会社概要

商号	株式会社フェローテックホールディングス (英文表記) Ferrotec Holdings Corporation
設立	1980年9月27日
資本金	295億4,941万7,527円
株式公開	株式会社東京証券取引所 スタンダード 1996年10月18日(証券コード:6890)
決算期	3月31日
従業員数	15,708名(連結)

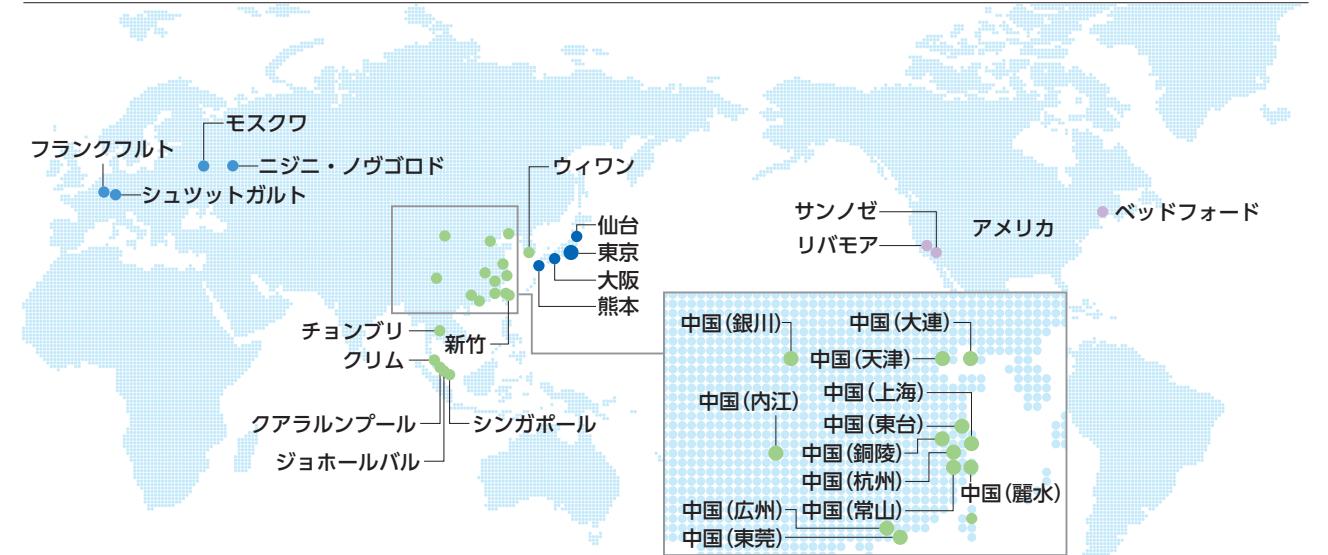
所在地

本社 〒103-0027
 東京都中央区日本橋2-3-4
 日本橋プラザビル5階

役員

取締役	代表取締役社長	賀 賢 漢
代表取締役副社長	山村 丈	
取締役	並木美代子	
取締役	大石純一郎	
取締役	武田 明	
取締役	佐藤 昭広	
社外取締役	岡田 達雄	
社外取締役	坂本 明彦	
社外取締役	磯 巧	
監査役	常勤監査役	若木 啓男
社外監査役	松本 拓生	
社外監査役	大樂 弘幸	

グローバルネットワーク



欧州

- フランクフルト (ドイツ)
- シュツットガルト (ドイツ)
- モスクワ (ロシア)
- ニジニ・ノヴゴロド (ロシア)

アジア

- 杭州
- 上海
- 銀川
- 銅陵
- 東莞
- 東台
- 常山
- 天津
- 大連
- シンガポール
- 新竹 (台湾)
- ウィワン (韓国)
- クアラルンプール (マレーシア)
- クリム (マレーシア)
- ジョホールバル (マレーシア)
- チョンブリ (タイ)

日本

- 東京 [本社]
- 千葉
- 兵庫
- 石川
- 岡山
- 神奈川
- 大阪
- 仙台
- 山形
- 埼玉
- 青森
- 宮城
- 熊本

米国

- ベッドフォード
- リバモア
- サンノゼ

販売拠点 生産拠点